

Monthly Times (H29. 2月号)

☆創造・自律・共生☆

★有田中央高等学校★



○地域の清掃活動に参加



地域の清掃活動に生徒有志が参加しました。地域の一員としての自覚がより深まりました。

【クリーン有田川運動】

4日(土)、町の恒例行事「クリーン有田川運動」に地域協育会の「さわやかな街づくり」部会が呼びかけて、約65人の有志生徒と21人の本校職員が参加し、周辺道路と有田川の清掃を行いました。約1時間ほど地域の方々とともに「空き缶」や「ペットボトル」などのゴミを回収し、ごみは8袋分にもなりました。共に汗を流すなか、自然と会話も弾み、生徒と地域の方々とのコミュニケーションも深まったようです。その後、学校で生徒と先生が作った美味しい「豚汁」に舌鼓を打ち、清掃活動について振り返りました。

○「学びの日」で生徒発表・公開・研究授業

17日(金)、全校をあげて、本校総合学科の特色ある教育内容について教育関係者や地域の方々に理解していただくことを目的として「学びの日」を開催しました。

3年生 学習成果について熱く発表

3年生は体育館で系列・コースの代表が、系列での学習成果について発表を行いました。この発表会は、1、2年生に今後の学習に見通しを持ち、前向きに意欲を高めてもらうことが大きな目的です。3年生は、各系列の代表者が緊張しながらも、立派に発表を行いました。それぞれの系列の特色が出た発表で内容も盛りだくさんでした。色々な課題に向き合い、失敗してもあきらめず、最後まで挑戦し続けることの大切さが1、2年生にも伝わったような気がします。系列での学びが今後ますます充実したものになることを期待します。

2年生 「生き方在り方ゼミ」で地域の方々に学ぶ



2年生は「セルフディスカバリー」の授業で、恒例の「生き方在り方ゼミ」を実施しました。地域で活躍されている社会人の方々に講師としてお招きし、1グループ4～6名の生徒と、語り合っていました。今回は28名の講師の方に「仕事への思い」や「自らの生き方」等について話していただきました。講師のお話はいずれも体験に基づいた説得力のあるものばかりで、会話が弾むグループが多くありました。嬉しいことに、生徒の態度やコミュニケーション力は、年々良くなっていると、おほめの言葉をいただきました。丸山藍(2-5)さんは「人生いろいろあると思った。一番大切なのは、くじけても前を向く事だと教えてもらったので、これからは活かしたい」と話しました。これを機に、2年生には、自分自身の生き方・在り方について見つめ直し、働くことや、地域社会への参画への意欲・意識を高めて欲しいものです。



1年生 インターンシップ報告会

1年生は1月末に地域の各事業所のご協力で開催したインターンシップの報告会を行いました。発表は各クラスから代表者数名を選出し、パワーポイントを準備し学年全体で実施しました。発表・聴く側の態度ともに良く、みんなで実習内容について共有できたと思います。これを機会に2学年からの系列学習に向けての意識がより高まったと思われます。

○吹奏楽部引っ張りでフル回転！



吹奏楽部は現在8名の小所帯ですが、各自がそれぞれのパートでがんばっています。今年度も色々な団体から演奏の要請があり2月の終わりまで31回の演奏機会がありました。12日(日)、有田市の「オレンジコンサート」に出演しました。演奏曲は有田のわらべ歌「ささやき・川・有田の子供」と「ある晴れた日に～歌劇『蝶々夫人』より」を本校音楽科の宮田先生が独唱し、続いて美空ひばりメドレー(りんご追分・お祭りマンボ・愛燦燦)を演奏しました。先月、14日(土)、吉備経済クラブの新年互礼会にもお招きいただき、誰もが知る童謡や演歌、(見上げてごらん夜の星を・明日があるさ・上を向いて歩こう・演歌メドレー・美空ひばりメドレー等)を演奏しました。それぞれの会場を盛り上げ、拍手喝采の好評を博しました。

又、第45回和歌山県アンサンブルコンテスト(8名編成)に出場し見事、銅賞に入賞しました。来る、4月23日(日)、有田川町吹奏楽団との共演に出演依頼がきています。3年生が卒業してさみしくなりますが、様々な演奏の機会をえてますます地域に貢献できることは本当に嬉しい限りです。



【農業系列】

14日(火)、若手農業者の取り組みや研究を発表する機会として、県青年農業者会議がきびドームで開催されました。本校から2年系列生17名が出席し、松田信長(2-2)、林勢人(2-1)、石倉啓吾(2-1)君が農業クラブの事例発表として、平成28年度の研究報告を行いました。その内容について、若手農業者の皆様から面白い研究を行っているの参考にした等の声かけがありました。また、青年農業者の発表では本校卒業生の松坂進也さんの「ブラックライトでピンポイント効果」と題した選果技術開発の研究が最優秀賞に輝き、全国大会で報告されることが決まりました。交流会ではミカンやトマトの新品種などの試食も行われ、交流も盛んに行われました。



